

富山経協



シクラメン(解説・18ページ)

CONTENTS

- 2 TOP INTERVIEW
となみ衛星通信テレビ 岡部一輝社長
- 4 東部地区会員懇談会、会長・副会長会議
- 5 ものづくり品質管理セミナー／野路國夫氏(講演要旨)
- 6 業務日誌
- 7 Keikyo行事レポート
- 7 参加者NOTES
- 16 新会員紹介
- 16 会員の動き
- 16 富山県の最低賃金
- 17 富山県生活環境文化部との情報交換(講演要旨)
- 19 景況指標
- 20 おしらせ・行事予定

情報過疎地の解消を図る 観光誘客へ無線LAN開設

となみ衛星通信テレビ株式会社
代表取締役社長

岡部 一輝 氏



ケーブルテレビ事業を始めた経緯を聞かせてください。

青年会議所（となみJC）のOB仲間に、伊藤忠商事から提案があったのがきっかけです。仲間3人で「面白そうだ」と話をしてスタートしました。当時、ケーブルテレビ（CATV）は行政体ごとに認可を受けて行うことが一般的でしたが、世帯数の少ない田舎では事業として成り立たない。そこ

で（市町村合併前の）砺波市、福野町、福光町、城端町、井波町、庄川町をエリアとするCATV事業を目指して1989年、準備会社を設立しました。

県内のCATVの中で開局が早かったようですね。

開局は高岡が先でしたが、準備会社は富山県第1号です。振り返ると、若さゆえの無謀な挑戦だったとも思いますが、県内でも情報

過疎地とも言えるこの地域に情報が行き渡るようにしたいとの思いがありました。当時県議会議員だった河合常則さん（元参議院議員）が社長に就いて、関係機関などとの調整に当たってもらったおかげで、私は専務として実務に集中することができました。

—テレビ接続は加入率68%—

ちょうどこの頃、放送衛星の打ち上げ成功がありました。CATVへの番組配信がテープから衛星通信に切り替わった時期で、社名はここに由来しています。1991年に砺波市、福野町、福光町の市街地エリアで開局し、翌年は城端町、井波町、庄川町の市街地エリアでもサービスを開始しました。現在は行政からの委託業務も含めて、砺波市、南砺市、小矢部市の一部を除く全域でサービスを提供しています。エリア内の約42,000世帯中、テレビの接続は約28,500世帯（約68%）、インターネットの接続は約11,000世帯（26%）と住民の皆さんの支持のお陰で、高い加入率となっています。

—放送から通信事業に参入—

メディアが多様化し、多チャンネル化していますが、どのように対応されてきましたか。

開局当時、CATVは新聞やラジオなど既存のメディアと分けて「ニューメディア」と呼ばれました。その後、行政の規制緩和により、ケーブルを利用した電話や、さらにはインターネットが可能になり、「マルチメディア」と呼ばれるように。放送一辺倒から通信事業への参入です。その途端にNTTとの競争が始まりました。インターネットがブロードバンド化して、ケーブルが光ファイバーに

なった。さらにスマートフォンやタブレット端末が普及し、Wi-Fi（ワイファイ、無線LANの一種）が日常生活の中に入ってきている。投資の切れ目がありません。

それでも増収増益に持ってこられた手腕はすごいですね。

コマーシャルという地域情報を集める目的で専門の営業課を持っているのは当社だけです。収入を増やすためというよりも、地域の商売の活性化につながるようケーブルを使ったらいかがですかと提案しています。若い社員が色々とアイデアを出しています。

観光案内などで無線LANを活用する自治体が出てきました。

当局も今年4月から公共施設15カ所にWi-Fiの無料アクセスポイントを開設しました。ただのアクセスポイントとしてだけでなく、地域の情報を提供できるようになっています。観光客などはお薦めの観光コースやイベント情報などに簡単に接続することができます。

また、南砺市ではお年寄り向けの「そくさいネット」というサービスを行っています。ボタンの少ない端末を使って、地域の情報を知ったり、近所の人とテレビ電話ができたりするものですが、この事業にも参画しています。

CATVは地域密着が売りと思えますし、防災面では住民の期待も

あると思いますが、取り組みは。

自社のチャンネルでは議会の様子を放送したり、消防署と連携して火事の情報を流したり、地域の人に必要な情報を流しています。こうしたことは地元ならこそできる。選挙速報などは視聴率がドンと上がります。

「情報化の遅れを何とかしたい」というのがスタートだったので、集まった情報を色々な方法で地域に伝える努力が必要だと思っています。2001年には北日本新聞社と一緒にラジオ局の「エフエムとなみ」を立ち上げました。また加入者に配布するチャンネルガイド誌には番組表だけでなく、地域のお店の情報やグループの活動、地域の昔話などを掲載しています。情報収集、編集ともに自社の社員に任せており、この情報を番組作りにも生かしています。コマーシャルについても地域の商売の活性化に繋がるように提案しています。

—相談窓口のサポート課新設—

スタッフの教育・研修はどのようになさっていますか。

あえて経験者は採用していません。番組、映像作りなどの技術的なノウハウは、東京へ研修に行くなどして習得しています。番組作りは、地域のお客さんの目線に立つのが一番大切だと考えています。

一方でサービスが増え、機械が新しくなると、例えばモコンの使い方が分からないとか、コンピューターが立ち上がらないといった相談が増えてきます。これまではどうやって加入率を上げるかと取り組んできましたが、加入者の皆さんに喜んでいただけるよう心がけようと、今年4月に「サポート課」を設けました。専従4人体制で、困っているお客さんの所へ飛んでいっています。

社員に求めていることは。

第一にやる気と日々の変化への対応、そして地域の皆さんのニーズを捕まえること。地元密着で、地域の皆さんにケーブルテレビは地元のメディアだよ、ということをどうやって広めていくか、日頃から取り組んでいます。

最後に座右の銘をお尋ねします。

昔から日々、新しい仕事に取り組む場合、「日々新た」ということが大事だということを考えています。感謝や勤勉さなどありますが、我々の仕事はいつもそういう考えがないと、時代についていけないというのが率直なところ です。

— 略 歴 —

1942(昭和17)年9月生まれ。南砺市(福光)出身。福光中学卒業、太平木工、トヤマキカイ勤務を経て、1974年オカベ美装を創業し、1976年(株)オカベ設立、2004年から会長。1989年のとなみ衛星通信テレビ設立に伴い専務就任、2006年から現職。1997年(株)TSTテクノ設立に伴い社長就任、2006年副社長、2012年6月から会長。



会社概要

となみ衛星通信テレビ株式会社

設立：1989年1月
開局：1991年6月
所在地：南砺市八塚568-2
資本金：4億9,860万円
事業内容：有線テレビジョン放送事業、有線放送を利用した電気通信事業(対象エリア:砺波市、南砺市、小矢部市)
従業員数：40人(2012年11月現在)
売上高：15億5,400万円(2011年度)
関連会社：(株)ティエスティテクノ、(株)エフエムとなみ

東部地区会員懇談会



11月12日(月)、89名が参加して、東部地区会員懇談会をホテルグランミラージュで開催した。

今回は、会員企業であるAWS(株)の畠山靖雄社長がリーダーを務める「畠山靖雄とオールドルーキズ」によるカントリー音楽コンサートを開催。カウボーイソングの「峠の我が家」に始まり、最後は「ユア マイ サンシャイン」を全員で大合唱し、大いに盛り上がった。



石井知事



稲垣会長



米屋副会長



佐々副会長

懇親会では、来賓の石井知事から再選のお礼と、国内経済に陰りが出始め、一層の中小企業対策が重要であることから、県内中小企業の振興と人材育成に関する基本条例を制定し総合的に施策を進めていくなどと挨拶があった。稲垣会長から当協会においても会員企業のサポートにつながる事業を引き続き進めていくとの言葉の後、乾杯をし、東部地区担当の米屋副会長が、東部地区がものづくり県富山のけん引役にならないといけないと、協会への一層の協力を呼び掛けて挨拶した。なごやかに会員相互の懇親を深め、佐々副会長の上がり締めで中締めを行い散会した。

会長・副会長会議

東部地区会員懇談会に先立ち同ホテルで、稲垣会長はじめ、町野、笠井、米屋、佐々、松岡副会長が出席して、会長・副会長会議を開催した。

はじめに事務局から、2013年度のスケジュールについて報告した。次に、①会費について、現行会費規程では企業・団体、個人を問わず同額となっているが、個人の入会希望者から個人会員会費の検討要請があり、一定の

減額について次回理事會に諮ることとした。また、②近年、災害による企業情報の喪失や人為的な情報漏洩が多発しており、システム等を使う立場に立った情報管理の勉強会・情報交換会が必要との認識から、この趣旨に沿った新しい「委員会」を立ち上げることにした。なお、会社更



生手続きに入ったワシマイヤー(株)について、今後とも雇用の維持を図るため、協会として協力していくことを確認した。



「コマツの品質経営」

コマツ

代表取締役社長(兼)CEO 野路 國夫 氏

コマツの経営の定義は「品質と信頼性を追求し、企業価値を最大化」することで、全てのステークホルダーから信頼されることを一番大事に考え、取り組んでいる。

「コマツウェイ」

社員には当社の価値観を書いた「コマツウェイ」を勉強してもらう。コマツの強さや信念、心構え、行動スタイルなどを書いている。

1. トップマネジメント編

どのステークホルダーからも信頼されるため、我々は4点(トップの現場密着、方針展開、パートナー間の連携、人材の育成)を重視している。

(1) トップの現場密着

トップは現場に行け。私は社長になってから、売上や利益、シェアなどについて指摘したことがない。ただし、自分で決めたことを出来なかったら厳しく言う。決めたことを上手くやらないから結果が悪い。何が悪かったかを反省することが大事。現場を知らないとその勘が働かない。要するに小さい物事を見て大きなことを考える。データを見ることも現場。現場の人から直接意見を聞く力が大事だ。

(2) コミュニケーションを率先垂範

そのために私は年に30~40回、全世界で社員ミーティングに出向く。管理職とミーティング、そして社員全員集会をする。会社の状況を説明し、理解してもらう。トップになったら社員とやり続けなといけな。同じことを言い続けなとい文化は変わらない。そこ

を今大事にしてやっている。

(3) リスク処理を先送りしない

安全とコンプライアンスを一番重視している。報告の際も優先順位は、安全・環境、コンプライアンス、品質保証、それから業績。ここをしっかりとしないとバッドニュースが入ってこない。

2. モノ作り編

モノづくり7 Waysを作った。

(1) 品質と信頼性の追求：

ダントツを狙おう

ハイブリッド油圧ショベルの電動モータを自社開発した。当初、出来る訳がないと反対されたが、2年かけて開発し、生産ラインも社内で作った。無理と思ったものでも、やれば出来る。

モノづくりで、挑戦する気持ちがなかったらダメだし、トップ自らが言わないとダメだし、社員全体に力がないと出来ない。そういうことを「ダントツを狙おう」「挑戦しよう」と表現している。

(2) 現場主義：

現場・現物・現実を良く見よう

ロジスティクス改革をしている。現場をよく見ろという時に、人、モノ、情報の流れを見て、究極は工場とお客様の現場しかいないと思う。ICTが進んだお陰で、特に情報をしっかりと分析することで、営業の改革を進めたい。

(3) ビジネスパートナーとの連携：

Win-Winの関係

サプライヤーとWin-Winの関係でないといけな。困っている時こそ仕事を出す。そうしないと協力してもらえない。リーマンショ

ックの時、私は先行手配した。内製を外に出した。

3. ブランドマネジメント編

(1) ブランドマネジメント

お客様が何を望んでいるか、お客さんのところへ行って分析して見つけ出す。これがブランドマネジメント活動。全世界の代理店を中心としてやっている。

(2) 無人運行システム

オーストラリアで今、衛星を介して無人でトラックが動いている。集中コントロール室に当社の人間がいて制御する。つまりダンプを売るのではなく、運行関係を全部請け負うので、コマツがなくてはならない。こういう商品開発が究極のブランドマネジメント。

コムトラックスといって、建設機械に全部GPSを付けている。稼働時間や燃費などお客さんの状況が全て分かる。そこで、ファイナンス事業を拡大している。真のデータがとれるので、生かせる。

(3) ダントツソリューション

開発のパターンは3つ。従来型商品を開発する「ダントツ商品」。「ダントツサービス」は、コムトラックスのように建機に仕掛けをすることでバリューチェーンで売上を伸ばす。3つ目が「ダントツソリューション」。お客様の課題を解決すればビジネスにできる。人手の確保が難しい鉱山では無人の運行システムまで作る。このような持続的なビジネスモデルを作り上げることが大切。最終的にはダントツソリューションになっていくと思う。

業務日誌

2012年 10月6日～12月5日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会 議	教育委員会 研究部会 (第5回)	教 育	10月22日(月)	富山経協・研修室	7名
	東部地区会員懇談会		11月12日(月)	ホテルグランミラージュ	89名
	労働法制研究部会	人事・労務政策	11月16日(金)	富山商工会議所ビル	8名
	人事・労務政策委員会 幹事会	人事・労務政策	11月22日(木)	富山経協・会議室	7名
	教育委員会 研究部会 (第6回)	教 育	11月26日(月)	富山経協・研修室	10名
	教育委員会 定例委員会 (第3回)	教 育	11月26日(月)	富山経協・研修室	15名
	総務交流委員会 定例委員会	総務交流	12月 4日(火)	富山経協・研修室	15名
セ ミ ナ ー 講 座	県外企業見学研修会	総務交流	10月9～10日(火～水)	岐阜県:未来工業(株)、 愛知県:アイコクアルファ(株)	10名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月11日(木)	富山経協・研修室	26名
	品質工学実践講座	品質管理	10月12日(金)	富山経協・研修室	18名
	管理職マネジメント研修 (第2回)	教 育	10月16日(火)	富山県農業総合研修所	28名
	事務・間接部門の業務改善	教 育	10月17日(水)	富山商工会議所ビル	52名
	品質管理入門コース講座	品質管理	10月18(水)、25日(木)	富山経協・研修室	23名
	若手社員活性化コース	教 育	10月19日(金)	富山商工会議所ビル	54名
	富山経協会員交流ゴルフコンペ	総務交流	10月20日(土)	呉羽カントリークラブ	23名
	品質トラブル未然防止セミナー	品質管理	10月22日(月)	富山県農業総合研修所	33名
	富山県生活環境文化部との情報交換	環 境	11月2日(金)	富山経協・研修室	29名
	ISO9001内部監査員養成コース	品質管理	11月6・7日(火・水)	富山商工会議所ビル	46名
	管理者基礎コース	教 育	11月9～10日(金～土)	インテック大山研修センター	37名
	県外企業見学研修会	環 境	11月13～14日(火～水)	茨城県: ㈱日立製作所電力システム社、 公共処分場「エコフロンティアかさま」	10名
	コスト改善力実践コース	教 育	11月15日(木)	富山商工会議所ビル	46名
	労働法実務研修会	人事・労務政策	11月16日(金)	富山商工会議所ビル	56名
	県外企業見学研修会	品質管理	11月19～20日(月～火)	岐阜県:リコーエレメックス(株)、 長野県:K O A(株)	13名
	管理職マネジメント研修 (第3回)	教 育	11月21日(水)	富山県農業総合研修所	28名
	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月21日(水)	富山地鉄ゴールデンボウル	26チーム・ 104名
	環境への取り組み「事例発表会」	環 境	11月22日(木)	富山経協・研修室	27名
	経理・財務の基礎コース	教 育	11月27日(火)	富山商工会議所ビル	34名
ものづくり品質管理セミナー	品質管理	11月29日(木)	富山電気ビル	220名	
管理職マネジメント研修第4期同期会	教 育	11月29日(木)	富山経協・研修室	12名	

総務交流委員会

■県外企業見学研修会

10月9日(火)～10日(水)2日間の日程で開催し、10名が参加した。今回は、経営企画委員会との共催により、経営理念に特徴のある2社を訪問した。

1日目は岐阜県の未来工業(株)で、「ほう・れん・そう」の禁止、成果主義の禁止(年功賃金)、ノルマシステムの禁止、残業の禁止などユニークなやり方で好業績を維持している名証2部上場企業である。創業者の山田相談役からは、社員を全く管理せず、地場の相場水準の待遇を与えることで社員にやる気を出させているというお話を聞

いた。

2日目は愛知県のアイコクアルファ(株)で、こちらは非上場会社であるが、社員には会社の経理を公開し、ボーナスが業績に連動する成果配分であることを理解させていた。また、仕事の目標を自主的に設定させ、それを達成していくことでやる気を引き出すことができると考えており、そのために目標管理を徹底し、週毎、1か月毎、半年・1年毎等で実績の進捗管理をしているとのことであった。

両社とも、社員にやる気を出させることで業績を伸ばしていくという考え方は一致しているものの、そのやり方が正反対であるところ



1日目の未来工業にて

が参加者には非常に興味深かった様子で、会社での質疑応答時間が、2社とも予定時間をオーバーするほどだった。

(「参加者NOTES」7頁掲載)



参加者NOTES

総務交流委員会

「県外企業見学研修会」に参加して

富山電気ビルディング株式会社

総務部次長 京谷 昇



“どうやったら人は動くか” — 今回見学させていただいた2つの会社は、従業員が自ら目標・計画を設定・実行し、そして経営者は、従業員が自ら行動できる環境を整えることに企業経営の重点を置いていました。

1日目に訪問した未来工業(株)では、創業者である山田相談役の「儲からない会社の反対のことをやればいい」、「会社の方針は、どうやったら社員が喜んでくれるか、頑張ってくれるかを考えること」という言葉に感銘を受けました。年間1,600時間の労働時間や年功序列70歳定年(65歳のヒラ社員で月給70万円の人がいる)など、同社の様々な制度はまさに他とは“反対のこと”でしょう。また同社では、

提案制度により、多くの工夫された商品が生み出されており(特許・実用新案・意匠登録等3,000件以上)、採用されなかった提案にも報奨金が与えられています。これらはすべて従業員のモチベーションの維持向上に資するものであり、創業者の理念の強い表れであると感じました。

2日目に訪問したアイコクアルファ(株)では、社員を「パートナー」と位置付け、“会社はそこで働く人のためにあるのであって、それが社会的使命である”という同社の理念を内外に発信する象徴として、本社ビル内に『こころの部屋』が設置されていました。正面入口には、昭和34年、会社の経営が苦しいときに、社員が貰ったボーナスを出

し合って同社に寄付したというボール盤が置かれていました。同社の制度では、経理の公開により各事業部の数字が他の事業部からも見えるようになってきていること、利益は事業部別に成果配分(賞与)されること、そしてその配分は議論によって取り分が決まることが印象的でした。配分や評価も含め事業部ごとに組合と議論を重ね、経理も公開されているので“儲かったら皆で分ける。儲からなかったら我慢する。”ことが定着しているそうです。

2社の企業経営はなかなか真似のできないものなのだろうと思いますし、企業にはそれぞれ歴史や伝承すべきものがあるので、必ずしも真似をする必要はないとも思います。しかし、それらを守りながら良いものは参考にし、取り入れていくことは大切だと感じています。そういう意味で、今回の企業見学研修会はとても良い刺激になりました。

■第117回会員交流ゴルフコンペ

10月20日(土)、呉羽カントリークラブ・日本海コースにおいて開



優勝した尚和氏

催した。

爽やかな秋晴れの絶好のコンディションの下、23名の参加者は気持ち良くプレーすることができた。懇親会ではお互いのショットに話

＜上位成績＞（敬称略）

	氏名	（会社名）	グロス	ハンデ	ネットグロス
優 勝	尚和純夫	（富山テレビ放送(株)）	79	6.0	73.0
準優勝	畠山靖雄	（AWS(株)）	88	14.4	73.6
3 位	北川繁明	（八雲インズ(株)）	94	20.2	73.6

が尽きず、和やかな雰囲気の中で親睦を深めた。

主な成績は下記の通りで、富山テレビ放送(株)の尚和専務がグロス79、ネット73.0で優勝した。

■会員交流ボウリング大会

11月21日(水)、富山地铁ゴールデンボウルにおいて開催した。平日の夕刻時間にもかかわらず、26チーム104名と多くの参加者を迎



優勝した富山電気ビルディング チーム

えることができた。

燐化学工業(株)の安田社長による始球式の後、一斉に競技が開始され、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で、熱戦が繰り広げられた。

ストライクやスペアの際の歓声がホールに響き渡り、隣のレーンのチームとの交流も深め合ってい

るようであった。

ゲームは1チーム4人の合計スコアで競われたが、女性と65歳以上の参加者には1ゲーム20ピンのハンデを加える従来からのルールを適用した。

主な成績は下記の通りで、富山電気ビルディング(株)チームが合計スコア1,140で優勝した。

＜上位成績＞-----会社名-----合計スコア

優 勝	富山電気ビルディング(株)	1,140
準優勝	田中精密工業(株) B	1,109
3 位	日本安全産業(株) A	1,084
4 位	(株)リッチェル B	1,066
5 位	(株)アイベック	1,052

人事・労務政策委員会

■11月幹事会

11月22日(木)、綿貫委員長以下6名が出席して、富山経協・会議室で開催した。

12月定例委員会に向けて「次年度事業計画」骨子について検討し、①活動方針についてスローガンを持つこととし、(案)を12月11日開催の定例委員会に諮り、決定する。②具体的な活動について(1)メンタルヘルス対策を、障害者雇用率2%達成のサポートを目的に「障害者雇用対策」に変更し、複数年の



活動とする。また、施設見学会等は年2回程度実施する。更に、継続的な障害者雇用のためのノウハウの蓄積を行い、会員企業へ情報提供できるようにする。(2)人事・労務管理セミナーに労務管理の基

礎的な講座を追加する。5～6回のシリーズで、複数の社労士と会員企業のベテラン労務管理責任者を講師とし、実践的な内容とする。具体的な案を定例委員会で審議決定する。(3)企業の社会的責任(CSR)の取組み、研究について検討課題とし、実施する場合は次年度下期とする。(4)海外企業見学研修会については、今年度は見合わせる。次年度に中国等の状況を見極めて判断することとなった。

■労働法実務研修会（第3回）

11月16日（金）、「退職・解雇・雇止めをめぐる人事労務管理上の諸問題」をテーマに、56名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士は、厳しい経済情勢が続く中、使用者からの一方的な労働契約の打ち切り（解雇・雇止め）については、紛争化のリスクがあり、裁判となった場合の結論についての予測が立ちにくい面もあり、希望退職募集や退職勧奨な



どによって「合意ベース」での契約終了（退職）となるよう働きかける場合が多いと思うが、その退職の効力が後になって覆されたり使用者に損害賠償を求めてくる事例も見られるとし、実務担当者が

押えておかなければならない退職・解雇・雇止めをめぐる諸問題について、直近の労働契約法改正との関係で注目される「有期労働契約の更新上限特約・不更新特約」の問題なども含め、裁判例や具体的ケースを踏まえて、留意すべき点を詳しく解説した。



教育委員会

■定例委員会

11月26日（月）、金岡委員長はじめ15名が出席して富山経協・研修室で開催した。



金岡委員長から、インフラが非常に発達して上手くいっていると、（インフラ整備を）止めていいのではないかとの極端な意見もあるが、止めるとボディブローのように影響が出てくる。教育も大切なインフラで、長く続けていくことが必要だとの挨拶があった。

2012年度教育委員会活動の経過報告では、①委員会活動は、「現場力の向上と教育」をテーマに、委員企業の取り組み事例の発表を行い情報・意見交換を実施した。②部会活動は、同上テーマを深く研究するため、12社で部会を設置

し、各社の現場力の定義、課題、取り組み事例等について発表・意見交換・見学会等を進めてきた。また、どのように実施されているのかその傾向を調査するため、アンケートを実施した。今後のスケジュールとしては、引き続き情報交換を進め、事例と課題をまとめた小冊子を発行し、会員へ情報提供する予定。③講座・セミナーは、事務局より定員と参加者数の差、参加会社数、各講座のアンケート結果を報告し、評価を行った。

講座の評価については、会員会社のなかでの講座への参加会社数を把握するようにする。

2013年度の研究部会テーマについては、委員会各位にアンケートを取り、要望を把握するとした。

以上を踏まえて、12月21日開催の定例委員会で2013年度計画について協議する。



■「事務・間接(スタッフ)部門の生産性向上」実践セミナー

10月17日（水）、「事務・間接(スタッフ)部門の効果的な業務改善の進め方」をテーマに、52名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

（一社）中部産業連盟 渡辺季幸主任コンサルタントは、事務・技術系業務の効率化・仕事の質の向上をめざし、「見える化」と「標準化」による業務品質向上と改善を推進するため、業務プロセス改善の着眼点や適用しやすい改善手法、タイムマネジメント、VMの考え方の解説、事例紹介、演習、参加各社の情報交換を通じて、効果的な改善の進め方の基礎的な理解を図った。



■若手社員活性化コース

10月19日(金)、54名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。



マネジメント・アドバイザーの松田勝明講師は、企業環境が激しく変化するなか、企業経営改革の主演は若手社員であり、その自覚と覚悟を持ってもらいたいと話し、グローバル思考や創造性が求められているとしたうえで、顧客の立場に立って仕事のできる創造型人間、積極的にチャレンジしプラス思考ができる社員になることが重

要であり、自分の名前が残る「冠仕事」をしてもらいたいと強調した。

また、「会社が今以上に環境変化に対応して、発展成長するには、どんな努力をすべきか」「お客様からよい評価を得られるようにするにはどんな努力をすべきか」をテーマに、相互意見交換を行った。

(「参加者NOTES」10頁掲載)

■管理者基礎コース

11月9～10日(金～土)、37名が参加して、インテック大山研修センターにて1泊2日で開催した。

講師の市川 登(公財)日本生産性本部認定経営コンサルタントが、経営環境の変化の潮流と経済・社会構造の改革について解説。戦略形成のステップについて学んだ後、計画・実施・統制など管理者の日



常の役割行動について細部にわたって洗い出し、グループで分析し、発表した。また、ベンチマーキングを行い、各社の得意技について意見交換をした。

部下の育成では、VTRのケースを使い、部下のコーチング面接の演習を行った。企業倫理、労務管理の重要性についても学んだ。研修で自覚したポイント、現状・自己の事実分析をもとに、業務にどう活かすかについて「自己啓発シート」を作成した。

参加者NOTES

教育委員会

「若手社員活性化コース」を受講して

富山スガキ株式会社
企画制作部 赤井 里美



松田勝明先生の講義では、ただ指示を待つだけの人間から企画・提案型の積極型人間になるための心構えや仕事に対する姿勢のあり方などを学ぶことができました。

『働くことの意味』や『仕事改善のためのポイント』、『自分が努力すべき課題と具体的な方法』など、明確でとても理解しやすい内容でしたが、中でも実際に社会で活躍されている方の具体的な例を交えての講義はとても参考になりました。その講義の中で特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は「継続は力である」ということです。学んだ事をメモす

ることや仕事の段取りは前日にすませることなど、日常的な習慣から見直し、地道に継続させる事が自分の成長に繋がる事を学びました。また、報告・連絡・相談に加え、徹底した指差し確認・声出し確認・呼称を継続し実行する重要性を教えてくださいました。私は報告や連絡の重要性を理解し実行しているつもりでしたが、今回の講義を受けて改めて勤務態度を見直すと不十分な点があると気づきました。今の自分を改め、教えていただいた事を忘れず継続的に実行していきたいです。

2つ目はお客様の目線になって

仕事を進める大切さです。企業側の専門的な知識や経験は重要ですが、それに固執してしまうと新たな創造や発展は望めません。どんな事をすれば顧客が満足するかを時にはお客様の目線になって考え、柔軟な観方をすることで新たな創造や発展、改善点を発見できることを学びました。また、お客様の目線だけではなく、職種が異なるだけでも物事に対する目線が変わることをグループディスカッションで学びました。今回の講義に参加された様々な職種の人と意見を交換する事により、自分では考えつけないような意見や考え方があつた事を知りました。

今回の講義で普段の自分の勤務態度を客観的に見直す事が出来ました。これからは学んだ「愚直・地道・徹底的」の精神を忘れず、何事にも積極的に挑戦していきたいです。

懇親会で、管理者間の異業種交流を活発に行った。

〔参加者NOTES〕11頁掲載

■コスト改善力実践コース

11月15日(木)、46名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

講師の(株)MEマネジメントサービス小川正樹代表取締役は、グローバル展開が進む中、国内の製造部門のコスト低減は最重要課題になってきているが、再度製造部門を点検すると、コストダウンの可

能性は十分残されているのが現状であるとして、製造、資材・購買部門のコストダウンに焦点を合わせ、必要な原価の基礎知識、製造現場で発生しているムダの見つけ方の習得や材料費(歩留向上、不良・品質コスト低減)、労務費(工数・設備効率向上)、製造経費(変動経費低減、固定経費低減、負荷の平準化)のコストダウン実践や管理方法について、事例や演習を交えて詳しく解説した。

■経理・財務の基礎コース

11月27日(火)、全部門の管理監督者を対象に34名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

この講座は、(株)不二越財務部経理室マネージャー 松井豊和氏を講師に、財務諸表の見方、考え方など基礎を固めて、財務会計の基

本や原価計算、原価管理の考え方、管理会計を確実に理解し、それぞれの業務、改善活動に応用できることを目的として、(株)不二越グループで実施し、効果を上げている研修をベースに、経協会員向けにアレンジしたもの。同社の事例や実習を交えて、具体的で実務に役立つ内容で指導頂いた。



今回は、グローバル化時代を迎え、海外経理の実務的問題点と課題についても解説して頂いた。



参加者NOTES

教育委員会

「管理者基礎コース」を受講して

前田薬品工業株式会社
品質管理部 試験検査課 課長 西尾 奈津子



本講座は、職場リーダーである「管理者とはどうあるべきか」を総合的視点から考え、「自分の状況に気づき、あるべき姿に変わる」を見出す内容の講義でした。

最初のオリエンテーションでは、6名ずつのグループに分かれ、いきなり「グループリーダーを60秒以内で決めてください」と言われびっくりさせられたが、これには重要な事項が含まれており、60秒とはトヨタでは新車1台が出来上がる貴重な時間であること。「管理者は、時間意識を持つことが重要」と言われました。時間をしっ

かり意識し、きちんと話し合いを持つことの重要性を冒頭から気づかされました。講義はその後、次から次へと盛り沢山であり、私自身の業務内容がどれだけ理想からかけ離れているかを知り、落胆するばかりでした。

「部長が課長に望むこと」においては、上司と部下との信頼関係の重要性、部下の能力を引き出すことが役目であること。そして、部下に仕事をまかせる勇気が大事とされました。いずれも人間関係が良好でなければなりません。これからはメールに頼らず、顔と顔

を合わせ、短い時間でも話し合いの場を持つことが大事であると痛感しました。そして、人を好きになることから始めたいと思います。

今回を機に改めて自分はどうなのかを分析し考えさせられました。特に、部下の育成では部下が前向きに仕事に取り組めるように導くためのコーチングの大切さが重要であること。また、コーチングは組織活動の効率やチームワーク力をあげるための人材育成に欠かせないものであることを学びました。今回の講座で、私はいかに管理者の資質を欠いているかに気付かされ、自身の至らなさを痛感しました。そして、もっとコーチングを学んでいきたいと強く感じました。

今回、市川先生の講義のおかげで、自分を見つめ直す良い機会になりました。丁寧な説明を頂き、ありがとうございました。

品質管理委員会

■品質トラブル未然防止セミナー

10月22日(月)、33名が参加して、富山県農業総合研修所において開催した。

近年、技術面におけるプロセスの改善が進むにつれて、ヒューマンエラーによる品質トラブルや事故の発生が大きな問題となっており、このセミナーは、9月18・19日に開催した「ヒューマンエラー対策講座」のフォローアップとして企画したものである。「未然防



止の考え方と方法論」を中心に、ヒューマンエラーの特性、エラープルーフ化の原理、エラー未然防止のためのチーム活動、エラー未然防止活動の組織的推進について、中央大学理工学部経営システム工学科教授 中條武志氏より指導頂いた。

受講後のアンケートでは、エラープルーフ化やFMEA(失敗モード影響解析)の手法が非常に参考になったとの声が多く聞かれた。
(「参加者NOTES」13頁掲載)

■ISO9001内部監査員養成コース

11月6・7日(火・水)、46名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものである。県



内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないところであり、2004年以降、ISO9000s内部監査員養成セミナーを毎年開催してきた。

講師には(株)ダイナテックの小紙浩氏を迎え、指導を頂いた。受講者は内部監査の実技演習などを通じ、マネジメントシステムの有効性を監査することの重要性を認識していた。

(「参加者NOTES」13頁掲載)



参加者NOTES (記事は10月号掲載)

品質管理委員会

「TQM経営者トップミーティング」に参加して

藤堂工業株式会社
取締役経営企画室長 飯野 修



本講座は、企業経営者・役員を対象として、トップ自らTQMを推進し企業体質の強化を図るため、「信頼」「挑戦」「人づくり」を理念として開催され、今年で2回目となります。ミーティングでは最初に、全国で活躍されている企業の経営者をお招きし実際のTQMの事例などを講話して頂き、第2部ではテーマ毎にグループディスカッションを行い、各メンバーの意見交換や相互研鑽を図りました。

講演は、(株)千代田グラビヤ代表取締役 佐藤裕芳様に「中堅・中小企業のQC改善活動」という演

題でお話して頂きました。同社の事業内容・沿革の紹介から、現場の問題点とQC活動へ進んだ背景と理由、活動の中で見えてきた問題点と対応、活動の感想や今後の課題など、PDCAを根気強く回しながら企業のレベルアップを後押しし、「継続は力なり」という結論で結ばれました。QC活動という職場小集団活動へのトップの関わり方が大変重要だということを再認識させられました。

次に、2班でグループディスカッションを行いました(佐藤社長様とコーセル(株)町野会長様がオブ

ザーバとして各グループに参加)。私は、「人の能力を引き出すマネジメント(人材育成)」というテーマで、各メンバーの自己紹介・業務内容を説明した後、①各人の能力を最大に引き出す仕組み、②職場小集団活動の進め方、③改革を進めるリーダーの育成という3つのサブテーマを順に議論していきました。約3時間の長丁場でしたが、①社員とのコミュニケーション、見える化を大切にすること(QCサークルや方針管理の活用)、②各社が人材育成を組織で支援する独自のシステムを保有(資格取得推進などで社員のやる気を引き出すこと、失敗を責めないが大切)というポイントをまとめ、発表しました。全体的に引き締まった時間を過ごすことができて貴重な体験でした。佐藤社長様、町野会長様はじめ関係各位に感謝申し上げます。



参加者NOTES

品質管理委員会

「品質トラブル未然防止セミナー」を 受講して

コーセル株式会社 楠木 仁美



9月18日・19日に開催された「ヒューマンエラー対策講座」を受講し、そのフォローアップセミナーということで、このセミナーに参加させていただきました。先の講座では、ヒューマンエラーのメカニズムやグループ演習で実際の事例を基に対策の進め方を学ぶことができました。そして、今回のセミナーでは、エラーブルー化の原理やFMEAを用いた演習で未然防止について学び、2つのセミナーを受講することでより理解を深めることができましたと思います。

特に印象に残った内容としては、ヒューマンエラーは「注意力」「教

育・訓練」「検査・確認」だけでは防げない、ということです。

- ・「注意力」によってエラーを防ぐことはできるが、注意力を維持できないのが人間である。
- ・作業標準の「教育・訓練」ができていて発生するエラーには、「教育・訓練」は役立たない。
- ・人が何度も「確認」（多重チェック）しても、エラー検出率は上がらない。

これらは、考えてみると非常に納得できることですが、新たな気づきでした。ヒューマンエラーが発生すると“注意する”“再教育する”“再チェックする”などの対

策を実施することが多々ありますが、これではエラーが無くならないはず。ヒューマンエラーという“人が原因”という認識でいたため、その根本的な誤りに気付いたことが大きな成果でした。

また、グループ演習ではFMEAを用いて未然防止について学びました。発生したエラーを個別に対策しても、もぐら叩きにしかならないため、発生すると考えられる問題を予め計画段階で洗い出し、それに対する対策を講じておくことが重要ということでした。多くの事象に対して考えるのは非常に労力がいると思いますが、取り組んでいかなければならないことだと感じました。

今回のセミナーで学んだ事を活かし、今後はエラーの原因をしっかりと追究して、根本的な発生防止に繋がられるよう、業務に取り組んでいきたいと思ひます。



参加者NOTES

品質管理委員会

「ISO9001内部監査員養成コース」を 受講して

日本カーバイド工業株式会社
機能フィルム開発研究部 山口 敬太



ISO9001では、製品やサービスの品質保証を通じて、顧客満足向上と品質マネジメントシステムの継続的な改善を実現することを要求しています。今回私は、ISO9001の目的や規格の理解だけでなく、内部監査員に必要な基礎知識を習得することで、今後内部監査員として当社の品質マネジメントの継続的改善活動を推進していくために受講しました。

当講座では、1日目ISO9001要求事項、規格の解説及びグループワーク、2日目内部監査員の実技

演習を実施しました。1日目は、ただ単に本文を読んだだけでは理解するのが困難である規格の内容について、講師の方が経験談など具体的な事例を踏まえてわかりやすい表現で解説して頂いたことで、より理解を深めることができました。また、グループ内で参加された他社の方々とディスカッションをする機会もあり、普段なかなかできない貴重な体験をすることができました。2日目は、グループを1つの内部監査チームとし、チェックリストの作成と内部監査の実技

演習を行いました。初めての経験であり不安や戸惑いがありましたが、実際に内部監査員の一人として実技演習に参加することで、様々な観点から意見を聞くことができ、内部監査を行う上で必要な物の見方や考え方について学ぶことができました。

この2日間の講座を通して、内部監査とは、ただ単にISO9001に沿ったマニュアルを作成し管理できているかという適合性を判断するだけではなく、マネジメントシステムの運用は効果があるか、つまり有効性を監査することが重要な役割であると感じました。

今回、当講座で学んだ知識を活かし、監査を通じて当社の品質マネジメントの継続的改善活動推進に貢献していきたいと考えております。

■品質管理セミナー 実践しながら学ぶ

統計的手法活用講座

5月10日から富山経協・研修室において開講した「第56回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、10月11日(木)に15日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業における改善・改革活動を推進し、確実に成果を上げるために、自ら問題点を見つけ、考え、行動する人材の育成をねらいとしている。統計的品質管理(SQC)手法を学び、上司とキャッチボールのうえ職場の身近な問題をテーマとして取り上げ、グループ別にコンサルティングを受けながら、品質管理手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することが修了基準の一つとなっている。



10月11日の最終日には、先に開催された論文審査会で講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表の後、受講者26名全員が修了証を手にした。また、講座全体を通して総合評価上位の3名が優秀賞を受けた。

(「参加者NOTES」14頁掲載)

〈優秀論文〉

奥野 仁美さん(アイシン軽金属)
上田 将志さん(コーセル)
沢崎 宏治さん(中越合金鋳工)

〈優秀賞〉

沢崎 宏治さん(中越合金鋳工)
上田 将志さん(コーセル)
関口 晴美さん(富山化学工業)
〈講師派遣等のご協力企業〉
アイシン軽金属(株)、コーセル(株)、
(株)タカギセイコー、中越合金鋳工(株)、
富山化学工業(株)

■品質工学実践講座

4月から富山経協・研修室において開講した「第18回品質工学実践講座」は、10月12日(金)に10日間の全日程を終え、閉講した。

品質工学(タグチメソッド)は、技術のコンセプトの良否を的確かつ速やかに判断するために有効な評価技術。本講座は、矢野宏工学博士(日本規格協会参与)を筆頭講師とした講師陣(地元の品質工学の推進機関や企業のリーダー)



参加者NOTES

品質管理委員会

「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」を受講して

アイシン軽金属株式会社
押出工場管理部 生産技術グループ 奥野 仁美



私は生産技術グループに所属しており、量産化へ向けての良品条件の設定や、その評価を行う業務に携わっています。業務の中で量産条件の検討、及び得られた結果の比較を行うに当たって必要となる統計的手法についての理解を深めたいと思い今回の講座を受けることにしました。

この講座は、品質管理の概念や歴史についての講義から始まり、実話を交えながらの内容でとても興味を持ち受講することができました。また、背景を知ることにより、これから自分が学ぶものの必要性

について確認することができました。

講義においては、講師の方々の多種多様な考え方や経験が織り交ぜられていたことから、統計的手法への理解を深められたとともに、問題に対する多角的な物の見方が身に付けられたのではないかと感じています。また、演習を交えながらの講義でしたので、場合よっての手法の使い分けができるようになったと思います。そして、手法を活用して効率的に実験を行ったり、得られた結果を統計的に判断するなど、習得したかった見方・考え方を習得できました。

研究論文についてはグループディスカッション形式で行われたので、他社の方々の意見や考え方を聞くことができたとともに、他社の方にもわかりやすく伝える工夫を学ぶことができたので、貴重な経験になりました。講師の方からも進め方や考え方について親身なアドバイスを頂き、大変良い勉強になったと思います。自社内では当たり前だと思っていた考え方であっても他社では異なる考え方があることを知ることもできました。それにより、今後は今までは別の視点からの業務の進め方もできるのではないかと感じています。

半年間この講座で学んだ知識・手法を忘れないためにも実践でどんどん活用していきたいと思っています。そして、品質の高い良い製品を作っていきたいと思っています。

により、製品設計者や製造技術者が「品質」と「コスト」の目標を達成するために、少人数方式の個別指導を受け、受講者が抱えている問題、ひいては企業の問題までも徹底的に検討し、解決することを目的としている。

10月12日の最終日には、研究論文の発表を行い、受講者18名が修了証を手にした。また、年々受講生のレベルも上がるなか、次の3名が優秀賞を受けた。

(「参加者NOTES」15頁掲載)



〈優秀賞〉

大林 環さん (アイシン軽金属)

若林尚貴さん・大 哲也さん
(YKK)

真門雄一さん・萱原敏徳さん
(YKK)

■ものづくり品質管理セミナー

11月29日(木)、町野委員長はじめ約220名が参加して富山電気ビルにおいて開催した。

町野委員長の講師紹介を兼ねた挨拶の後、コマツ代表取締役社長兼CEOの野路國夫氏から「コマツの品質経営」と題して講演を頂いた。

コマツの経営の基本となる「コマツウェイ」を中心に、「トップは現場に行き、現場の意見を聞くことが重要」「顧客が何を目指しているのか勉強し、課題解決に繋

げる」など、世界各地で全てのステークホルダーに対して信頼を得るための取り組みを、多岐に渡る事例を交えながら紹介した。参加者にとって非常に有益になる講演であった。

(講演要旨は5頁掲載)



参加者NOTES

品質管理委員会

「品質工学実践講座」を受講して

「変位と荷重の評価による
エレメント成型の均一性の向上」

YKK 工機技術本部 若林 尚貴



今回、品質工学実践講座へ参加することで、品質工学を基礎から学ぶことが出来ました。この講座では座学だけでなく、実際の業務における課題に対して品質工学の手法の実践を行うことが出来た点が良かったと思います。

テキストや他の事例を見て理解したつもりになっても、いざ自身の直面する課題に対して実践しようとした際に基本機能をどのように考えるか、誤差因子・制御因子をどのように選定すればよいのかということは簡単に出来るものではないと感じました。しかし、今

回の講座での実践を通して、また講座に参加する他メンバーの内容を聞き、課題に応じた様々な考え方に触れる事により、品質工学の考え方を体感し、今後も活用していけるスキルを身につけることが出来たと感じました。

また、基本機能の検討、こういったエネルギー変換により、どのような仕事をしているのかを考え、誤差因子・制御因子に何を選定するか検討することを通して、自分自身の担当する機械やその製造技術に関する本質的な働きを考える良いきっかけとなりました。今回

テーマとしてあげた「変位と荷重の評価によるエレメント成型の均一性の向上」においては当初、寸法のバラツキ低減のみに主眼をおいており、その結果、寸法をそのまま測定して評価しようとしていました。しかし、荷重を加えて、それに対する製品寸法の変化を測定するという、エネルギーに近い部分に着目して評価できたことが、新しい着眼点を得られた部分だと感じました。

このような技術の本質を追求しようとするのが技術者として重要なポイントだと再認識しましたので、今後は自身の専門知識を深めるとともに、技術者としての思考力の強化に努めたいと感じました。それと同時に、今回の講座を通して学んだ品質工学の手法を活用して、開発・設計を行っていきたいと思いました。

環境委員会

■富山県生活環境文化部との 情報交換

11月2日(金)、29名が参加して富山経協・研修室で実施した。

今回は、環境政策課 八田主任より「富山県環境基本計画の改定等について」、環境保全課 中島

課長補佐より「環境保全施策の動向について」、(財)とやま環境財団 浦谷 課長より「とやま環境財団の取組みについて」と題して、環境行政に関する講演を頂いた。

参加者からは富山県の環境行政に関する質問などが出され、活発なうちに終了した。

(講演要旨は17頁掲載)



事例発表を行なった。環境業務に携わる参加者は、他社の設備省エネ・コスト削減、CO2 排出削減、資源循環の各事例を熱心に聴講し、「具体的な取り組みを聞いた」「他社の活動状況が分かり参考になった」等の声が多く寄せられ、有意義な事例発表会であった。



■事例発表会

11月22日(木)、27名が参加して富山経協・研修室で開催した。

昨年に引き続き、年度当初に情報交換会を立ち上げ、その場で交わされてきた内容を取りまとめて、

新会員の紹介

(50音順)

■ 有限会社 サイバースクエア

所在地 高岡市野村1661

ユニゾンビル5階

代表者 代表取締役 宝里 均

設立 2001(平成13)年2月

資本金 300万円

従業員 4名

事業内容 印刷に関わるデザイン、ホームページ制作・運営、インターネットに関わるコンサルティング



■ 株式会社 ヒスコム

所在地 砺波市三郎丸208

代表者 代表取締役社長 清水 淳正

設立 2003(平成15)年6月6日

資本金 3,000万円

従業員 53名

事業内容 情報システムの企画・設計・調査・開発・販売、情報セキュリティに関するハードウェア・ソフトウェアの提供とコンサルティング、シェアードサービスセンター、コールセンター



会員の動き

(50音順) (敬称略)

■ 代表者の変更

富士機設工業株式会社

代表取締役社長 木原 清志 (前：藤原弘道)

■ 社名の変更

東洋紡株式会社 富山事業所

(前：東洋紡績株式会社 富山事業所)

富山県の最低賃金

(富山県のこれまでの最低賃金 692円)

700時間額円

2012年11月4日発効

※特定の産業には特定(産業別)最低賃金が定められています。

富山県環境基本計画の改定等について

富山県生活環境文化部
環境政策課 企画係主任 八田 哲典



県では、平成24年3月に「富山県環境基本計画」を見直し、平成33年度を目標年度とする新たな計画を策定しています。

新しい計画では、実効性があり、新たな法令や課題等に対応した施策を総合的に推進し、本県の将来像である「水と緑に恵まれた環境が保全・

創造され、人と自然が共生しながら発展する富山」の実現を目指すこととしています。

具体的な施策体系として、分野ごとの施策では「循環型社会と低炭素社会づくりの推進」「自然環境の保全」「生活環境の保全」「水資源の保全と活用」、分野横断的な施策で

は「県民・事業者・NPO・行政等が連携して取り組むネットワークづくり」「持続可能な社会構築に向けた人づくり」「環境と経済の好循環の創出」「国際環境協力の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいます。

今後、この計画に基づき、県民、民間団体、事業者、行政が連携を図りながら、「環境とやま県民会議」を中心に、快適で恵み豊かな環境の保全と創造に取り組むことといたしますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

環境保全施策の動向について

富山県生活環境文化部
環境保全課 課長補佐 中島 浩薫



1 地下水の保全の取組み

地下水保全活動の担い手として、消雪設備の管理者や名水・湧水の保全団体のリーダー等を対象に養成講座を開催し、「地下水の守り人」62名を委嘱したところであり、今後、地下水保全活動の担い手として、消雪設備の節水など地域での活動を活

発に展開されることを期待しております。

水田面積の減少により地下水涵養量の減少が見込まれることから、今年度、県内4地域において水田を活用した地下水涵養をモデル的に実施するとともに、現地での見学会の開催、リーフレットの作成配布により

啓発を図っています。

2 化学物質の適正管理と排出抑制に向けた取組み

健康影響の可能性のある化学物質が多様に存在する中、排出基準が定められていないことから排出削減が十分に進んでいない状況にあります。そのため県では、講習会やウェブサイトにより、排出される化学物質の周辺環境濃度をパソコンで簡易に把握できるシステム（METI-LIS）の普及を図ることにしています。

とやま環境財団の取組みについて

(財)とやま環境財団
協働交流課 課長 浦谷 一彦



とやま環境財団は、「美しく住みよい富山県」の創造を目指し、ごみ等の足元の問題から、地球温暖化という世界規模の問題まで、様々な環境保全活動を、県民、企業、自治体の理解と協力により積極的に展開しています。

当財団の主な取組みは、①環境保全活動を協働して展開する基盤・環

境ネットワークの形成・拡大（協働推進事業）、②学校や地域社会で環境保全に対する理解を深め、意欲を高める環境教育の推進・支援（環境教育推進事業）、③ホームページやメールマガジン及びイベント等による情報発信、意識の高揚・エコライフの実践拡大（普及・啓発事業）、⑤温暖化防止の普及啓発、地球温暖

化防止活動推進員等への活動支援（地球温暖化防止活動推進センター事業）、⑤エコアクション21の認証・登録への補助業務、制度の普及等（エコアクション21地域事務局事業）などです。

今後とも、富山県の水と緑に恵まれた豊かな環境を後世に引き継いでいくため、「循環型・脱温暖化社会」の構築に向け、県民、企業、自治体と連携を取りながら、行動を伴う啓発活動に力を入れてまいります。皆様のご理解とご協力をお願いします。



表紙の花
シクラメン

クリスマスが近づくと、園芸店には赤と緑のクリスマスカラーの植物、シクラメンとポインセチアが並びます。シクラメンは地中海地方原産のサクラソウ科の植物で、地際に茎の膨らんだ扁平な球根ができます。球根の形から英語では *sow bread* (雌豚のパン) とよばれ、日本では「ブタノマンジュウ」という可哀そうな和名がつけました。一方で、花をかがり火に見立てた「カガリビバナ」という優雅な名前もついています。

原種シクラメンには十数種類あって、ミニシクラメンなどと呼ばれて流通しています。一般に普及しているシクラメンは19世紀以降に品種改良されたもので、花の色は、赤、白、ピンクが基本ですが、最近では紫や黄色のシクラメン、八重咲きやウェーブ、フリンジのシクラメンもみられます。小椋佳の「シクラメンのかほり」がヒットした頃、シクラメンには本当は香りが無いといわれていましたが、現在では様々な「香りシクラメン」が開

発されています。写真はその一つで、香りのあるブルーシクラメンとして発売されている品種です。

シクラメンは咲き終わった花や黄色く変色した葉を、ねじるように引き抜いて管理すると、冬の間長く楽しむことができます。シクラメンは高温多湿に弱いので枯らしてしまうことが多いのですが、6月頃から徐々に水やりを控えて葉を完全に落とし、球根を鉢のまま8月末まで日陰で休眠させる休眠法と、6～8月は雨の当たらない半日陰の風通しの良い場所に置いて生長させる非休眠法の二通りの夏越し法があります。どちらも9月頃に、球根の上半分を出すようにして新しい土に植替えると新しい葉と蕾がついてきます。1年間自分が世話をしたシクラメンの花は、売られている鉢のような豪華さはないかもしれませんが、心を豊かにしてくれます。

(富山県中央植物園 中田政司)



原種シクラメン▶

人材の確保・従業員の再就職をお手伝い!

事業の拡大・欠員補充等による
人員確保を行いたいとき

事業の整理・縮小等に伴い、
人員削減せざるを得ないとき

そんなとき、お気軽にご相談ください。

(定年を控えた高齢者を雇い入れる事業主に助成金が支給されます)



since 1987

出向・移籍(転籍)の専門機関

財団法人 **産業雇用安定センター**

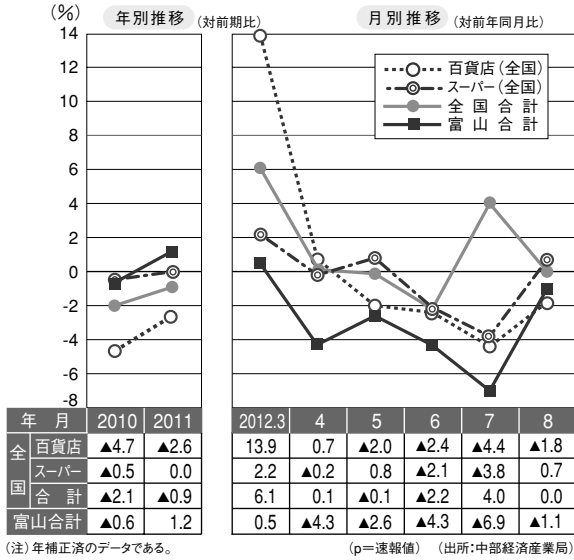
〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F TEL 076-442-6900

ご利用時間/9:00~17:00(土・日・祝日は休み) FAX 076-439-2860

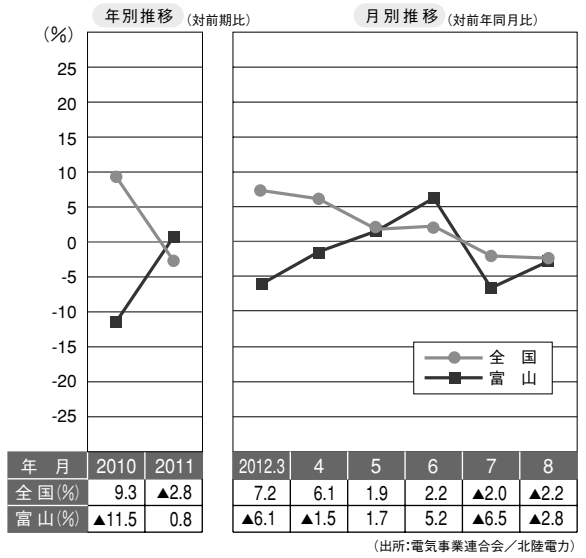
インターネットで最新の人材情報をどうぞ <http://www.sangyokoyo.or.jp/>

景況指標

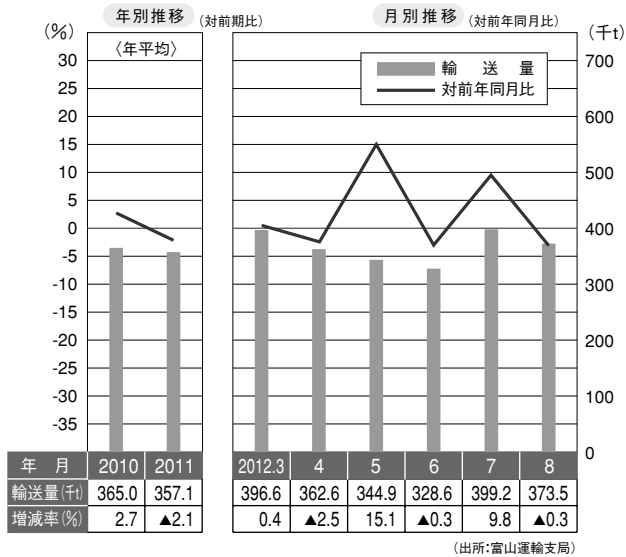
■百貨店・主要スーパーの売上高



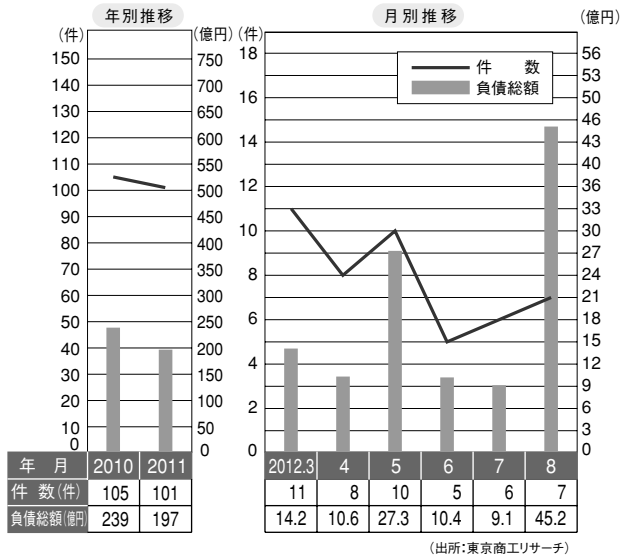
■大口電力消費量 (製造業計)



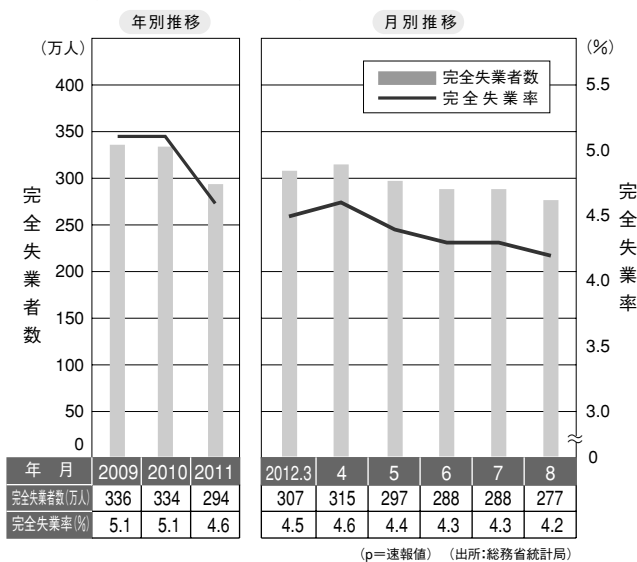
■一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



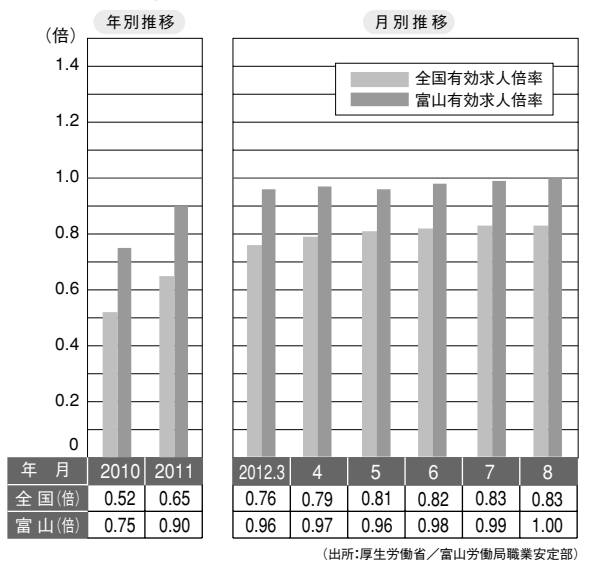
■企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



■完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



■有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



お知らせ

2013 新春互礼会

日 時：2013年1月4日（金）16:00～17:30

場 所：ANAクラウンプラザホテル富山 3階 鳳の間
（富山市大手町2-3 TEL:076-495-1111）

県内4経済団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会
 - ・富山県商工会連合会
 - ・富山県商工会議所連合会
 - ・富山県中小企業団体中央会
- （ご案内済）

2013年度 労使交渉セミナー

「2013年春季労使交渉・協議に対する
経営側の基本姿勢」

日 時：2013年2月6日（水）13:30～15:30
場 所：富山商工会議所ビル9階 99会議室

講 師：(一社)日本経済団体連合会
労働法制本部 主幹 明石 祐二 氏

受講料：会員 4,000円／会員外 10,000円
定 員：40名（先着順）

人事・労務政策委員会

2013年 新入社員 講習会

～企業人としての
心構え・態度の確立と仕事の進め方～

日 時：2013年4月2日（火）9:30～16:30
場 所：富山県市町村会館 2階ホール

講 師：第一交易(株)代表取締役 西能 徹 氏
(株)インテック秘書室長 稲田 恵子 氏
マネジメント・アドバイザー 松田 勝明 氏
ほか

受講料：会員 7,000円／会員外 14,000円
定 員：150名（先着順）

教育委員会

行 事 予 定

2012年12月16日～2013年2月6日

詳しくはホームページ（<http://www.toyama-keikyo.jp/>）
「講座・講演案内」をご覧ください。

	開 催 日	時 間	事 業 名	委員会名	場 所	備 考
会 議	12月18日（火）	15:00～17:30	品質管理委員会 定例委員会	品質管理	富山経協・研修室	
	12月21日（金）	15:00～16:00	教育委員会 研究部会	教 育	富山経協・研修室	
	12月21日（金）	16:30～	教育委員会 定例委員会(第4回)	教 育	富山経協・研修室	
	1月 4日（金）	16:00～17:30	新春互礼会		ANAクラウンプラザホテル	上記お知らせ参照
セミナー ・講座	2月 6日（水）	13:30～15:30	2013年度労使交渉セミナー	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	上記お知らせ参照

「富山経協」vol.803

2012年（平成24年）12月号
2012年12月15日発行（隔月発行）

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号（富山商工会議所ビル 別館5階）
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>
Eメール info@toyama-keikyo.jp